研究テーマ 明治期の俳句に関する研究

所属 学術研究部人文科学系

准教授 田部 知季
https://researchmap.jp/t_tabe

研究分野	日本文学
キーワード	近現代文学、明治俳句、俳句言説、俳句表現、地方俳誌

研究室URL：

研究の背景および目的

明治20年代、正岡子規の俳句革新を通じ、近代俳句は徐々にその輪郭を鮮明にし始める。特に日清戦後の明治28年頃、子規ら「新派」の俳句が文壇に認知され、該派に出自を持つ句会や俳誌が各地に現れる。しかし、既存の近代俳句史は子規や高浜虚子、河東碧梧桐といった著名俳人に力点を置いており、当時の俳句を取り巻く多彩な人々の動静を十分考慮できていない。そうした状況に鑑み、従来看過されてきた俳句雑誌を中心に、俳句が「文学」として地位を確立していく動向を検証する。



■主な研究内容

明治俳句言説史の研究

俳句を「文学」として価値づける言説の変容過程を検証する。著名な俳人の句や俳論のみに即して俳句史を辿るのではなく、これまで顧みられてこなかった雑報的な俳壇評や俳人評も広く考察対象とする。そうした共時的な言説の場に目を向けることで、俳論が提起された同時代的な文脈を鮮明化する。

明治俳句表現史の研究

日本派（新聞『日本』に拠った子規らの派閥）の句風の変遷を、一次資料に即して分析する。後年の句集のみに依拠するのではなく、初出に遡りながら時代時代の俳句表現を闡明する。併せて、主要な新聞や雑誌に掲載された句を網羅的に収集、電子データ化し、近代俳句データベースの構築を目指したい。

地方俳句雑誌の基礎的研究

各地の句会が発行する俳句雑誌の情報を整理し、当該分野の研究基盤を整備する。明治期の俳誌は多くが現在稀覯のため、主要な図書館・文学館等の所蔵状況をまとめつつ、それぞれの特色を紹介する。また各誌の総目次を作成し、改題や所蔵先一覧と併せて広く公開することを目標としている。

期待される効果・応用分野

当該研究では俳句を各時代の文芸思潮と関連づけながら考察するため、夏目漱石や芥川龍之介など、俳句に手を染めた作家の研究にも発展し得る。また、従来検証されてこなかった地方俳誌を研究対象とする点で、地域振興にも資する側面があると考えられる。たとえば高岡の越友会や富山の墨汁吟社など、先行論に乏しい句会に光を当てることで、地域の歴史や文化に対する関心を醸成する効果が見込まれる。さらに、地域の図書館や文学館、博物館といった施設と連携しながら調査を進めることで、各館や個人が所蔵する資料の再評価にも繋がるものと期待される。

■共同研究・特許など

該当なし

富山大学研究者プロファイルPure URL：
https://u-toyama.elsevierpure.com/ja/persons/tomoki-tabe/